

令和3年度

千葉大学大学院 医学薬学府

修士課程 医科学専攻

授業案内 (シラバス)

2021

Graduate School of Medical and Pharmaceutical Sciences

2-Year Master Course (Medical Field)

目 次

必修科目

医学薬学研究序説・生命倫理学特論	7
------------------	---

特論科目

先端生命科学特論	9
生体防御医学特論	10
薬物療法情報学特論	12
臨床医科学特論	14
先端治療学特論	17
公衆衛生学特論	18
遺伝情報応用学特論	19
サステイナブル環境健康科学	20
メンタルヘルスサポート学特論	22
メンタルヘルス・エクセルシオール演習	24
メンタルヘルスサポート学特論Ⅱ	25
メンタルヘルス・エクセルシオール演習Ⅱ	26
メンタルヘルスサポート学特論Ⅲ	27
メンタルヘルス・エクセルシオール演習Ⅲ	28
イノベティブ先端治療学（応用）	29
プレゼンテーションセミナー中級	31

履修登録について

- ① 履修登録は学生ポータルで行ってください。
- ② 履修登録の取り消しは、履修登録期間に行えます。ただし、当該ターム以降に開講するもののみ取り消すことが可能です。（既に講義が終了しているものについて、取り消すことは出来ません。）
- ③ 次に該当する場合には、事務的に履修登録を削除します：
・ 上限単位を超えた登録
・ 履修不可の科目登録
・ 重複履修不可科目の重複登録

医学薬学府ホームページ <https://m.chiba-u.jp/>

学生ポータル <https://cup.chiba-u.jp/campusweb/campusportal.do>

Moodle <https://moodle3.chiba-u.jp/moodle21/>

修士課程医科学専攻 時間割

(対面または同時双方向型メディア授業にて実施する場合)

令和3年(2021年度)前期(T1-3)授業時間割(予定)

時限	月	火	水	木	金
I 8:50~ 10:20	生体防御医学特論	先端治療学特論			
II 10:30~ 12:00		臨床医科学特論			
III 12:50~ 14:20					
IV 14:30~ 16:00					
V 16:10~ 17:40			公衆衛生学特論		
VI 17:50~ 19:20		薬物療法情報学特論	医学薬学研究序説・ 生命倫理学特論	遺伝情報応用学特論	先端生命科学特論

集中講義：**サステイナブル環境健康科学** (集中開講予定)

VOD講義：

メンタルヘルス サポート学特論Ⅱ	(左記メンタルヘルス系2講義を 修得した学生の履修が望ましい)
メンタルヘルス・ エクセルシオール演習Ⅱ	(メンタルヘルスサポート学特論Ⅱ を修得した学生の履修が望ましい)
メンタルヘルス サポート学特論Ⅲ	(メンタルエクセルシオール演習Ⅱ を修得した学生の履修が望ましい)
メンタルヘルス・ エクセルシオール演習Ⅲ	(メンタルヘルスサポート学特論Ⅲ を修得した学生の履修が望ましい)

VOD講義：**メンタルヘルス
サポート学特論** (前期に履修可能)

**メンタルヘルス・
エクセルシオール演習**
(メンタルヘルスサポート学特論
を修得した学生の履修が望ましい)

令和4年度(2022年度)前期(T1-3)授業時間割(予定)

時限	月	火	水	木	金
I 8:50~ 10:20	遺伝情報応用学特論	先端生命科学特論			
II 10:30~ 12:00	公衆衛生学特論	薬物療法情報学特論			
III 12:50~ 14:20					
IV 14:30~ 16:00					
V 16:10~ 17:40			生体防御医学特論		
VI 17:50~ 19:20		臨床精神心理学特論	医学薬学研究序説・ 生命倫理学特論	先端治療学特論	臨床医科学特論

集中講義：**サステイナブル環境健康科学
/環境健康科学特論** (集中開講予定)

VOD講義：

メンタルヘルス サポート学特論Ⅱ	(左記メンタルヘルス系2講義を 修得した学生の履修が望ましい)
メンタルヘルス・ エクセルシオール演習Ⅱ	(メンタルヘルスサポート学特論Ⅱ を修得した学生の履修が望ましい)
メンタルヘルス サポート学特論Ⅲ	(メンタルエクセルシオール演習Ⅱ を修得した学生の履修が望ましい)
メンタルヘルス・ エクセルシオール演習Ⅲ	(メンタルヘルスサポート学特論Ⅲ を修得した学生の履修が望ましい)

VOD講義：**メンタルヘルス
サポート学特論** (前期に履修可能)

**メンタルヘルス・
エクセルシオール演習**
(メンタルヘルスサポート学特論
を修得した学生の履修が望ましい)

2021年度（令和3年度）授業カレンダー

前 期							
	日	月	火	水	木	金	土
4 月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
5 月	25	26	27	28	29	30	1
	2	3	4	5	6	7(水)	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
6 月	30	31					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
7 月	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
8 月	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
9 月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
10 月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
11 月	26	27	28	29	30		
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
12 月	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
1 月							
	2	3	4	5	6(火)	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
2 月	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
3 月							
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
4 月	27	28	29	30	31		
T1		7	7	7	7	7	
T2		7	7	7	7	7	
T3	8～9月（集中講義、留学生受入れプログラム等）						

前 期	入学式：4月5日(月) 5月7日(金)は、水曜授業日 卒業式・大学院修了式・学位記授与式：9月28日(火)
----------------	---

後 期							
	日	月	火	水	木	金	土
10 月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
11 月	31						
		1(水)	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
12 月	28	29	30				
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
1 月	26	27	28	29	30	31	
							1
	2	3	4	5	6(火)	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
2 月	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
3 月							
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
4 月							
T4		7	7	7	7	7	
T5		7	7	7	7	7	
T6	2～3月（集中講義、留学生受入れプログラム等）						

後 期	入学式：10月1日(※実施している研究科については、部局の判断において休講とし、振替日を設定出来る。) 11月1日(月)は、水曜授業日 創立記念日：11月5日(金) 大学祭：11月5日(金)～7日(日) 1月6日(木)は、火曜授業日 1月14日(金)は、大学入学共通テスト準備 卒業式：3月23日(水) 大学院修了式・学位記授与式：3月25日(金)
----------------	---

オリンピック・パラリンピック

補講週間(補講は6限目に実施。通常授業あり。)

予備日

2021年度（令和3年度）学年暦

期	ターム	事項	日程	備考
前 期		春季休業期間	4月1日（木） ～7日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式：4月5日（月）午前 ・ガイダンス：4月5日（月）午後
	第1ターム	授業期間	4月8日（木） ～6月1日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録・修正期間：4月1日（木）～21日（水） ・水曜授業日：5月7日（金） ・補講週間：5月19日（水）～25日（火） ・予備日：6月5日（土）
	第2ターム	授業期間	6月2日（水） ～7月20日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録・修正期間：5月26日（水）～6月15日（火） ・補講週間：7月7日（水）～13日（火） ・予備日：7月21日（水）
	第3ターム	夏季休業期間 （集中講義等）	7月26日（月） ～9月30日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間 集中講義等を実施 ・大学院修了式・学位記授与式：9月28日（火）
後 期	第4ターム	授業期間	10月1日（金） ～11月22日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式：10月1日（金） ・履修登録・修正期間：9月24日（金）～10月14日（木） ・水曜授業日：11月1日（月） ・大学祭：11月5日（金）～7日（日） ・創立記念日：11月5日（金） ・補講週間：11月9日（火）～15日（月） ・予備日：11月24日（水）
	第5ターム	授業期間	11月25日（木） ～1月24日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録・修正期間：11月18日（木）～12月8日（水） ・冬季休業期間：12月28日（火）～1月4日（火） ・火曜授業日：1月6日（木） ・臨時休業日（大学入学共通テスト準備）：1月14日（金） ・補講週間：1月7日（金）、11日（火）～13日（木）、17日（月） ・予備日：1月25日（火）
	第6ターム	臨時休業期間 （集中講義等）	1月26日（水） ～3月31日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業期間 集中講義等を実施 ・大学院修了式・学位記授与式：3月25日（金）

医学薬学研究序説・生命倫理学特論		Research Methodologies and Life Ethics
科目責任者/Organizer: 本橋 新一郎 MOTOHASHI Shinichiro		単位/Credit: 1 実施時期/Conducted: T1
連絡先/Email: sah5234@office.chiba-u.jp		授業形態/Course type: Moodleによるオンデマンド + 5/12(水)17:50~19:20のみ Zoomによる On-demand on Moodle + Zoom lecture on 5/12 (Wed) 17:50~19:20
目的 Objectives	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究倫理に則り自ら研究課題を設定し、自立した研究活動を行う能力を修得するための基礎となる知識を身につける。	In this subject, students are required to learn basic knowledge to be independent researchers, so that they can acquire abilities to find research topics and conduct research activities in conformity with research ethics.
目標 Goals	<p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理, 研究倫理について理解し, 医学研究者としての行動規範に自覚を持つ。 ・千葉大学における情報セキュリティ規範を理解し, 適切な情報処理を実施できる。 ・微生物の取り扱いを理解し, 感染事故を予防できる。 ・医薬品, 試薬の適切な取り扱いを学び, 安全に実験実施できる。 ・医薬バイオ分野の知財について理解し, 特許について考察できる。 ・臨床試験の手順を理解し, 臨床試験計画を検討できる。 ・英語論文の構造を理解し, 博士論文を執筆できる。 	<p>Students are expected to acquire the following knowledge and skills:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ To understand bioethics and research ethics, and to observe code of conduct as a medical researcher. ・ To understand information security standards of Chiba University, and to conduct appropriate information processing. ・ To understand the handling of microorganism and to prevent infections. ・ To learn appropriate management of drugs and reagents, and to conduct experiments safely. ・ To understand the Intellectual Property (IP) in the fields of Medicine, Pharmaceutical Sciences, and Biotechnology, and also the patenting process. ・ To understand clinical trial procedures enough to make clinical trial design. ・ To understand the structure of English articles enough to write doctoral dissertations.
授業計画・授業内容 Course Plans and Contents	<p>第1回 4月~5月</p> <p>(1) 病原性微生物を扱う研究者のために・・・ -どのようにして事故を防ぐか- 真菌医学研究センター 亀井 克彦 教授</p> <p>(2) 医薬品および試薬の取り扱いについて 附属病院薬剤部部長 石井伊都子 教授</p> <p>第2回 4月~5月 研究倫理について 倫理審査委員会委員長 伊豫 雅臣 教授</p> <p>第3回 4月~5月 情報処理の方法及び情報セキュリティ 情報システム管理者 白澤 浩 教授</p> <p>第4回 5月12日(水) 英語論文の書き方について (Zoom 講義) 医科学教室(英語論文の書き方講座) 講師 ミリンダハル氏</p> <p>第5回 4月~5月 薬剤の臨床試験について 附属病院臨床試験部部長 花岡 英紀 教授</p> <p>第6回 4月~5月 医療バイオ分野の知財について 未来医療教育研究機構 小池 順造 特任講師</p> <p>第7回、第8回 4月~5月 生命倫理について①、② 法政経学部 川瀬 貴之 准教授</p>	<p><No.1> Apr ~May</p> <p>(1) For Researchers handling of Pathogenic Microorganisms -How to Prevent Biohazardous Accident- Professor Kamei Katsuhiko, Medical Mycology Research Center</p> <p>(2) Handling of Drugs and Reagents Professor Ishii Itsuko, Director, Department of Pharmacy, Chiba University Hospital</p> <p><No.2> Apr ~May Research Ethics Professor Iyo Masaomi, Chairman of the Ethics Review Committee</p> <p><No.3> Apr ~May Information Processing Methods and Information Security Professor Shirasawa Hiroshi, Information System Manager</p> <p><No.4> May 12 (Wed) on Zoom Academic Writing: How to Write a Research Paper in English. Ms. Melinda Hull, CACTUS Communications K.K.</p> <p><No.5> Apr ~May Clinical Trial of Drugs Professor Hanaoka Hideki, Director, Clinical Research Center, Chiba University Hospital</p> <p><No.6> Apr ~May The Intellectual Property (IP) in the fields of Medicine, Pharmaceutical Sciences, and Biotechnology Specially Appointed Lecturer, Koike Junzo</p> <p><No.7><No.8> Apr ~May Bioethics ①、② Associate Professor, Kawase Takayuki, Faculty of Law, Politics & Economics</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">Self Study 授業外学習</p>	<p>本講義で取り扱っている内容は、医学研究における基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとする。</p> <p>第2回終了後に eAPRIN の受講についての指示が行われる。指定された e-learning を受講し、受講完了証を期日までに亥鼻地区事務部学務課大学院係へ提出すること。"</p> <p>参考書：講義に際して資料を配布する。</p> <p>参考となる資料は次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学安全衛生管理マニュアル 千葉大学総合安全衛生管理機構編 ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 平成 26 年 12 月 22 日 文科省・厚労省 ・THE BELMONT REPORT U.S. Department of Health & Human Services search 	<p>In this subject, we cover the basis of medical research, which you will definitely need in the future. Therefore, you are expected to review the given handouts after each class, until you fully understand what you learned. After the 2nd lesson, you will be instructed to take eAPRIN. Make sure to take assigned e-learnings, and to submit the Course Completion Report to the Inohana Campus Graduate School Office.</p> <p>Materials : Handouts will be provided during class.</p> <p>Reference Books:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects, December 22, 2014, Ministry of Health, Labor, and Welfare (Provisional Translation July 2018) (https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n2181_01.pdf) ・ THE BELMONT REPORT, U.S. Department of Health & Human Services search
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">Evaluation 評価方法・基準</p>	<p>本講義の評価は、小テストやレポート課題等により行われます。</p> <p>フィードバック：各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Students will be evaluated based on quizzes and reports.</p> <p>Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>

<p>先端生命科学特論</p>	<p>Frontier Life Science</p>	
<p>科目責任者/Organizer: 金田 篤志</p>	<p>単位/Credit: 2</p>	<p>実施時期/Conducted: T1-T2</p>
<p>連絡先/Email: kaneda@chiba-u.jp</p>	<p>授業形態/Course type: On-line lecture (provided via Moodle on demand) and In-person lecture</p>	
<p>目的 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため、ヒトの主要な臓器について、解剖学、生理学の基礎的系統的な知識を身につける。</p>	<p>In the fields of medicine, pharmacy and related majors, students are encouraged to understand the basic and systematic knowledge for anatomy and physiology of human major organs to engage in research and education as an independent and leading researcher.</p>	
<p>目標 受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・ヒトの主要な臓器について理解する。 ・解剖学、生理学の基礎的系統的な知識を身につける。</p>	<p>GIO (General Instructional Objective): students are expected to be able to understand human major organs. SBO (Specific Behavioral Objective): students shall explain the basic knowledge of human anatomy and physiology, which is required for diseases and medicine.</p>	
<p>授業計画・授業内容 全 15 回の講義からなる。授業テーマごとにオムニバス形式で、第 1～5 回、第 9～15 回は Moodle 上で配信する。第 6～8 回は第 1 講義室にて対面で行う。 ——4/23(金)Moodle 配信—— 第 1 回 脳・神経系-1 「脳・神経系総論」(斎藤教授) 第 2 回 脳・神経系-2 「細胞分化, ネットワーク形成」(斎藤教授) 第 3 回 脳・神経系-3 「形態形成, パターン形成」(古関教授) 第 4 回 脳・神経系-4 「脳血管系の基礎と病態」(山口教授) 第 5 回 脳・神経系-5 「脳の機能局在論」(山口教授) ——対面講義—— 第 6 回 5/7 (金) 生殖系-1 「男性生殖系」(市川教授) 第 7 回 5/14 (金) 消化器系-1 「消化管」(金田教授) 第 8 回 5/28 (金) 消化器系-2 「肝・膵」(加藤教授) ——5/21(金)Moodle 配信—— 第 9 回 循環器系-1 「血液」(三村診療講師) 第 10 回 循環器系-2 「血管」(粕谷准教授) 第 11 回 6/11 (金) 循環器系-3 「心臓・腎」(真鍋教授) ——6/18(金)Moodle 配信—— 第 12 回 呼吸器系「肺」(鈴木教授) 第 13 回 生殖系-2 「女性生殖系」(生水教授) 第 14 回 代謝・内分泌系-1 「内分泌細胞の細胞機能」(田中教授) 第 15 回 代謝・内分泌系-2 「代謝・内分泌系の生体制御」(三木教授)</p>	<p>This course includes 12 on-line lectures and 3 in-person lectures: In-person lectures will be held at Lecture Room 1. ——On-line lectures provided on Apr 23 via Moodle—— 1) Brain & Nervous System-1 “Functional Anatomy” (T. Saito) 2) Brain & Nervous System-2 “Cell Differentiation & Network Formation” (T. Saito) 3) Brain & Nervous System-3 “Morphogenesis & Pattern Formation” (H. Koseki) 4) Brain & Nervous System-4 “Neurovascular system” (A. Yamaguchi) 5) Brain & Nervous System-5 “Localization of brain function” (A. Yamaguchi) ——In-person lectures—— 6) May 7 (Fri) Reproductive System-1 “Male Reproductive System” (T. Ichikawa) 7) May 14 (Fri) Digestive System-1 “Gut” (A. Kaneda) 8) May 28 (Fri) Digestive System-2 “Liver & Pancreas” (N. Kato) ——On-line lectures provided on May 21 via Moodle—— 9) Circulatory System-1 “Blood” (N. Mimura) 10) Circulatory System -2 “Blood Vessels” (Y. Kasuya) 11) Circulatory System -3 “Heart & Kidney” (I. Manabe) ——On-line lectures provided on June 18 via Moodle—— 12) Respiratory System “Lung” (T. Suzuki) 13) Reproductive System-2 “Female Reproductive System” (M. Shozu) 14) Metabolism & Endocrine System-1 “Physiology of the Endocrine Cells” (T. Tanaka) 15) Metabolism & Endocrine System-2 “Regulation of Metabolic and Endocrine Homeostasis”(T. Miki)</p>	
<p>授業外学習 本 web 講義で取り扱っている内容は、医学の基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。各回はくりかえし視聴可能であり、よく復習し自分のものとする。参考書：講義に際して必要に応じ資料を提供する。</p>	<p>It is possible to review each on-line lecture any number of times. Materials : Handouts are provided for each lecture when necessary.</p>	
<p>評価方法・基準 各回の web 講義後 web 上での小テストあるいはレポートで評価する。 フィードバック : 小テストは解説し、質問には個別に回答する。</p>	<p>Evaluation: examination/report for each lecture. Feedback : For on-line lectures, comment on examination will be provided. Questions from students will be answered separately.</p>	

生体防御医学特論		Medical Science on Host Defense
科目責任者/Organizer: 中島 裕史	単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1-2
連絡先/Email: nakajimh@faculty.chiba-u.jp	授業形態/Course type: オンデマンド型メディア授業 online (on-demand)	
目的 /Objectives	新興、再興感染症が脅威となる一方で、免疫を中心とする生体防御の機構が分子、遺伝子のレベルで明らかにされてきている。本授業科目では、主に医学・生命科学研究者を目指す学生を対象として、生体への侵襲と防御機構を統一的に学ぶことにより、その基礎研究および応用に向けた研究能力を習得する。	The global threats of emerging and re-emerging diseases are growing, and at the same time, the detail mechanisms of host defense including immune system are being revealed in molecular and genetic level. In these special lectures, the mode of action of virulent factors and the mechanisms of host defense are introduced, and through the lectures, students will get a good motivation to start their medical research.
目標 /Goals	下記参照	See below
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>全 15 回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。すべての授業はオンデマンド形式(Moodle 上)で行う。</p> <p>1 回 (4/12) ~ 2 回 (4/19) : 白澤担当 ウイルスの構造・分類・進化 ウイルス粒子の対称性を理解し、RNA ワールドから二本鎖 DNA へと進化した 7 種のゲノム様式を考察することができる。</p> <p>非細胞性生物の複製・転写 核酸 (RNA, DNA) 上の情報を複製することと転写が同等であることを基に、7 種のゲノム様式を理解することができる。</p> <p>3 回 (4/26)、4 回 (5/10) : 亀井担当 感染機構から見た病原真菌の基礎とそれら感染症の臨床像ヒト深在性真菌症の原因菌の性質と、それらに起因する疾患に関連して、主に原因菌とホストの関係 (感染機構) からみた基礎的知見と感染の結果としての臨床像を解説する。</p> <p>5 回 (5/17) : 大野担当 腸管免疫系 特殊に発達・分化してきた腸管免疫系の構造および機能について解説する。</p> <p>6 回 (5/24) : 彦坂担当 寄生虫感染と宿主応答 内部寄生虫は単細胞生物 (原虫) と多細胞生物 (蠕虫) に分類することができる。ここでは、これら原虫および蠕虫感染時における宿主免疫応答の違いを理解できるようにする。</p> <p>7 回 (5/31) : 中島担当 免疫抑制不全と日和見感染 膠原病をはじめとする多くの免疫疾患では、免疫抑制療法が行われ、その結果、種々の日和見感染症が引き起こされる。本講義では、近年の免疫抑制療法の特徴及びその危険性を理解する。</p> <p>8 回 (6/7) : 西城担当 病原真菌に対する宿主防御機構 真菌感染防御には、自然免疫と獲得免疫の両方が重要な役割を果たす。本講義では、真菌の認識機構やそこから誘導される獲得免疫機構などの分子機構について紹介する。</p>	<p>A total of 15 lectures will be given in an omnibus format for each class theme. All classes will be conducted in on-demand format (Moodle).</p> <p>Lecture 1 (4/12) ~ 2 (4/19) : By Prof. H. Shirasawa The structure, classification and evolution of viruses Students can understand the symmetries of virions, and studying the seven types of viral genome, which evolved from an RNA ancestor.</p> <p>The replication and transcription of non-cellular organisms Students can understand the replication of viral genomes from the view point that the transcription and the replication of RNA or DNA have the same mechanism.</p> <p>Lecture 3 (4/26), 4 (5/10) : By Prof. K. Kamei Pathogenicity of fungi and their infections The aim of this lecture is to learn human pathogenic fungi and their related diseases from the aspect of basic science and the clinical medicine. Medical mycology and host-fungus interaction will be discussed in the basic science section.</p> <p>Lecture 5 (5/17) : By Prof. H. Ohno Intestinal immune system Structure and function of the uniquely developed intestinal immune system will be discussed.</p> <p>Lecture 6 (5/24) : By Assistant Prof. K. Hikosaka Parasite infection and its immune response There are two main classes of parasites, protozoa and helminthes. In this lecture, differences of host immune responses to infection of each parasite will be discussed.</p> <p>Lecture 7 (5/31) : By Prof. H. Nakajima Immune suppression and opportunistic infection Strategies and their risks of immunosuppression will be summarized.</p> <p>Lecture 8 (6/7) : By Associate Prof. S. Saijo Host defense mechanisms against fungal infection Both innate and acquired immune responses are critical to the control of fungal infection. In this lecture, molecular mechanisms against fungal pathogens, including recognition of the microbes and activation of adaptive immune system, will be discussed.</p>

<p>9回(6/14)：幡野担当 ワクチンの作用メカニズム ジェンナーの種痘法発見に始まるワクチンの仕組みの解明の歴史は、免疫学研究の歴史でもある。ここでは、ワクチンの仕組みを分かり易く解説することにより、リンパ球による獲得免疫系の仕組みを理解出来るようにする。</p> <p>10回(6/21)：幡野担当 発生工学の生体防御医学研究への応用 発生工学的手法の開発により生体防御反応にかかわる分子の機能が個体レベルでわかるようになった。遺伝子改変マウスの作製法とそれらを用いた個体レベルでの生体防御機構の解析法について紹介する。</p> <p>11回(6/28)：清水担当 細菌の病原因子とその作用メカニズム 種々の細菌毒素の作用メカニズムを分子レベルで解説する。特に毒素の持つ種々の酵素活性がG蛋白を中心とした生体内情報伝達系にどのような攪乱を引き起こすのかを詳しく紹介する。</p> <p>12回(7/5)：八尋担当 細菌の病原因子の制御法 種々の細菌毒素の制御法を分子レベルで解説する。特に毒素の持つ種々の酵素活性をどのようにして制御するのかを詳しく紹介する。生体に入った毒素に対する新しい制御法も紹介する。</p> <p>13回(7/12)：須藤担当 アレルギー 免疫反応に起因する体の障害(アレルギー)のCoombsとGellによる4分類について概説する。この中で特にI型アレルギー反応の発症機序、症例の具体例、検査法、治療について解説する。</p> <p>14回(7/19)：米山担当 抗ウイルス自然免疫の分子機構 高等脊椎動物におけるウイルス感染に対する生体防御は、自然免疫と獲得免疫両者によって制御されているが、ここでは、自然免疫におけるウイルス核酸検知とそれによって誘導されるI型インターフェロンを含めた抗ウイルス生体防御機構について解説する。</p> <p>15回(7/19)：平原担当 免疫システムの成り立ち 生体防御にとって重要な免疫システムの成立、および自然免疫、獲得免疫系に関与する細胞の機能、作用機能分子群の解説を行う。さらに、気道粘膜を中心とした粘膜免疫システムによる生体防御機構と免疫システムの破綻と疾患免疫システムが破綻した場合におこる疾患(自己免疫疾患、アレルギーなど)の発症機構に関して解説する。</p>	<p>Lecture 9(6/14)：By Prof. T. Hatano Functional mechanisms of vaccination. A history of investigation of functional mechanisms of Vaccination discovered by Jenner is almost the same as that of immunological researches. Here, functional mechanisms of vaccination are plainly explained for understanding mechanisms of acquired immunity by lymphocytes.</p> <p>Lecture 10(6/21)：By Prof. M. Hatano Application of genetically engineered mice to biomedical science Over past decade, it has become possible to make any mutation in the germline of mice by utilizing transgenic and gene targeting technology. Gene targeting in ES cells offers a powerful approach to study gene function in a mammalian organism. In this lecture, I will introduce basic gene targeting and transgenic technology and their application to infectious disease and immunology.</p> <p>Lecture 11(6/28)：By Associate Prof. T. Shimizu The bacterial virulent factors and the mode of action. The various effects of bacterial toxins on the G-protein-induced signal transduction and their mode of action are introduced.</p> <p>Lecture 12(7/5)：By Associate Prof. K. Yahiro Regulation of bacterial virulent factors. The regulation of various bacterial toxins and the specific inhibitors of the toxins are introduced.</p> <p>Lecture 13(7/12)：By Associate Prof. A. Suto Allergy Hypersensitivity is classified into 4 types (The Gell-Coombs classification of hypersensitivity). In this lecture, the mechanisms, clinical course, examination, and therapy of type 1 hypersensitivity are introduced.</p> <p>Lecture 14(7/19)：By Prof. M. Yoneyama Anti-viral innate immunity. In higher vertebrates, defense against viral infection is regulated by both innate and acquired immunity. Here, molecular machinery underlying anti-viral innate immunity, including recognition of viral infection and action of type I interferons, will be discussed.</p> <p>Lecture 15(7/19)：By Associate Prof. K. Hirahara Development of Immune System Both innate immune system and acquired immune system are crucial for the host defense. But the immune system also plays pathogenic roles as drivers of autoimmune disease and allergic diseases. Here, development of the immune system and disorder of the immune system will be discussed.</p>
<p>／Self Study 授業外学習 各回終了後には講義ノートをくりかえし復習し、自分のものとする事。 参考書：適宜、参考書を紹介し、資料等を配布する。</p>	<p>After each lecture, review the lecture notes Materials：Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>
<p>／Evaluation 評価方法・基準 各回講義後のレポートで評価する。 フィードバック：必要に応じレポートについてはコメントを付して返却する。各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Evaluation: Reports Feedback: If necessary, reports will be returned with comments. Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>

薬物療法情報学特論		Pharmacotherapy Informatics
科目責任者/Organizer: 石井 伊都子		単位/Credit: 2
連絡先/Email: iishii@faculty.chiba-u.jp		実施時期/Conducted: T1~T2 火曜 6限 / Tuesday 17:50-19:20
授業形態/Course type: 対面授業+Moodle オンデマンド型 / In-classroom + On-demand on Moodle		
目的 Objectives	<p>疾病に対する薬物療法は、個人個人に合ったテーラーメイドの薬物療法が求められるようになってきている。本授業科目では、主に医療と社会とのコーディネーターを目指す学生を対象として、薬物療法を遺伝的背景・情報を加味した生体反応のレベルで学ぶことにより、これらの知識を社会に還元できる能力を習得する。</p>	<p>Recently it has been recognized that the most appropriate and personalized pharmacotherapy should be selected for each patient. In this subject, the master course students who are willing to work in the field of medical care learn pharmacogenetic factors responsible for variability in drug response.</p>
目標 Goals	<p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物の作用の発現機構を含めた薬力学の基本的概念の理解 ・薬物動態理論の実践と個別化医療 ・循環器疾患、呼吸器疾患、消化器・肝疾患、アレルギー・自己免疫疾患、がんの薬物治療の基礎的理解 ・複合薬物としての和漢薬への理解 	<p>GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Basic concept of pharmacodynamics and the process of drug development. ・ Practical Pharmacokinetics and personalized medicine. ・ Pharmacological treatment of cardiovascular diseases, respiratory diseases, mental disorders, gastroenterology and hepatology, allergic diseases and autoimmune diseases, cancer and Kampo (herbal) medicines.
授業計画・授業内容 Course Plans and Contents	<p>日付は対面授業：第1講義室で実施（火曜 6限 17:50-19:20） オンデマンドはMoodle 利用</p> <p>第1回 4/13 (火) 薬物療法情報学序論 (石井教授) 第2回 4/20 (火) 薬物の作用と受容体(橋本准教授) 第3回 4/27 (火) 薬物の主作用と副作用の機序(橋本准教授) 第4回 5/11 (火) 薬物動態の基礎理論 (石井教授) 第5回 5/18 (火) 臨床検査値を用いた個別化医療 (石井教授) 第6回 5/25 (火) 精神疾患の薬物療法 (伊豫教授) 第7回 6/1 (火) 薬物動態理論の実践 (鈴木准教授) 第8回 オンデマンド 5/11~6/15 前半のまとめ (石井教授) 第9回 6/8 (火) 循環器疾患の薬物療法 (宮内講師) 第10回 6/15 (火) 呼吸器疾患の薬物療法 (鈴木拓児 教授) 第11回 6/22 (火) 患者遺伝子情報の薬物療法への活用 (鈴木准教授) 第12回 6/29 (火) 消化器・肝疾患の薬物療法 (加藤准教授) 第13回 7/6 (火) アレルギー・自己免疫疾患の薬物治療 (中島教授) 第14回 7/13 (火) 和漢薬療法 (並木准教授) 第15回 7/20 (火) がんの薬物療法 (滝口教授) 第16回 オンデマンド 6/22~7/30 後半のまとめ (石井教授)</p>	<p>Lectures with dates are in-classroom at Lecture Room 1 Tuesday 6th period (17:50-19:20)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Apr 13 (Tue) Introduction of pharmacotherapy and drug information (Ishii) 2) Apr 20 (Tue) Drug-receptor interactions and drug effects (Hashimoto) 3) Apr 27 (Tue) Therapeutic and toxic effects of drugs (Hashimoto) 4) May 11 (Tue) Fundamental pharmacokinetics (Ishii) 5) May 18 (Tue) Personalized medicine using laboratory data (Ishii) 6) May 25 (Tue) Pharmacological treatment of mental disorders (Iyo) 7) Jun 1 (Tue) Practical pharmacokinetics (Suzuki) 8) Overviewing of the first half, on-demand lectures will be on Moodle, May 11~ Jun 15. (Ishii) 9) Jun 8 (Tue) Pharmacological treatment of cardiovascular diseases (Miyouchi) 10) Jun 15 (Tue) Pharmacological treatment of respiratory diseases (Takuji Suzuki) 11) Jun 22 (Tue) Use of genetic information on medication (Suzuki) 12) Jun 29 (Tue) Pharmacological treatment in the field of gastroenterology and hepatology (Kato) 13) Jul 6 (Tue) Medication for allergic diseases and autoimmune diseases (Nakajima) 14) Jul 13 (Tue) Pharmacological treatment by Kampo (herbal) medicines (Namiki) 15) Jul 20 (Tue) Cancer chemotherapy (Takiguchi) 16) Overviewing of the second half, on-demand lectures will be on Moodle, Jun 22~ Jul 30. (Ishii)

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">授業外学習 Self Study</p>	<p>本講義は薬物治療における基礎であり、正確な理解が求められる。そのため、受講者は各回終了後に講義プリントを繰り返し復習すること。</p> <p>参考書：看護の基礎科学7「薬とのかかわり：臨床薬理学」日本看護協会出版会(参考書)、「臨床薬物動態学」加藤隆一著 南江堂(参考書)</p>	<p>This class is the foundation of drug treatment and requires accurate understanding. Therefore, students must repeat the lecture print after each session.</p> <p>Materials : Reference reading will be suggested, and handout are provided.</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">評価方法・基準 Evaluation</p>	<p>各回講義後の小テスト、レポート等で総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義での小テスト 80% ・最終レポート 20% <p>フィードバック：最終レポートについてはコメントを付して返却する。各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Evaluation:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Test in each lecture is 80% ・ Final report is 20% <p>Feedback : The final report will be returned with a comment. Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>

臨床医科学特論		Molecular Mechanism and Pathophysiology of the Diseases
科目責任者/Organizer: 池原 譲	単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1-2
連絡先/Email: yuzuru-ikehara@chiba-u.jp	授業形態/Course type: 対面授業及びオンデマンド型メディア授業 In-person + online (on-demand)	
目的 /Objectives	疾患の病因、病態生理の解明が遺伝子のレベルで急速に進んでいる。本授業科目では、本専攻系の全ての学生を対象として、医科学の根幹をなす各種基本的疾患の病因、病態を理解し、診断学、治療学の原理、方法論を学ぶ。	Recent studies have elucidated the causative mechanism and pathophysiology of diseases on a molecular basis. In this class, all lectures are focused on the 2-year graduate students who learn how to diagnose and treat the patients through the understanding of the molecular mechanism and pathophysiological states of diseases.
目標 /Goals	疾病の診断と治療法について理解し、臨床医科学の発展に必要な知識を整理する能力、および考察力を身につける。	Understand the diagnosis and treatment methods for diseases, acquire the ability to organize the knowledge necessary for the development of clinical medical science, and acquire the ability to think.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>1回(4/13) 2限 対面授業(セミナー室1): 池原担当 臨床医学総論 I : 病理総論、現在の検査診断・治療技術を解説する。</p> <p>2回(4/20) 2限 対面授業(セミナー室1): 池原担当 臨床医学総論 II : 腫瘍の病理, 検査診断, 治療, 技術開発について解説する</p> <p>3回(4/27) 2限 対面授業(第2講義室): 岸本担当 癌転移の分子機構: 癌転移に関与する分子とそのメカニズムについて概説する。</p> <p>4回(5/11) オンデマンド型メディア授業: 大平担当 外科学1: 外科学の概要(歴史、意義、役割など)と関連する基本事項(診察、栄養療法、止血、創傷処置など)について解説する。</p> <p>5回(5/18) オンデマンド型メディア授業: 碓井担当 婦人科腫瘍学: 絨毛性疾患の細胞遺伝学的発生機序、診断、治療について解説する。</p> <p>6回(5/25) 2限 対面授業(第2講義室): 市川担当 泌尿器癌: 前立腺癌の精密医療について解説する。</p> <p>7回(6/1) オンデマンド型メディア授業: 高野担当 膵臓腫瘍: 膵癌における上皮間葉系移行の可塑性による癌進展機序について解説する。</p> <p>8回(6/8) 2限 対面授業(第1講義室): 滝口担当 がん薬物療法概論: がん薬物療法の基本的理論、臨床薬理学、併用療法の背景と臨床試験での実証について理解する</p>	<p>1st (4/13) 2th period In-person (seminar room 1) : Ikehara Clinical Medicine - General I : To study general pathology, and current approaches for disease detection and diagnosis.</p> <p>2rd (4/20) 2th period In-person (seminar room 1) : Ikehara Clinical Medicine - General II : Definition of etiology and pathogenesis to develop rational medical practice, by using or applying new technology.</p> <p>3th (4/27) 2th period In-person (lecture room 2) : Kishimoto Molecular mechanisms of cancer metastasis: Molecular mechanisms of cancer metastasis are discussed.</p> <p>4th (5/11) online (on-demand) : Ohira Surgery I : Lecture on basic articles including diagnosis, nutrition, hemostasis and wound healing in surgery</p> <p>5th (5/18) online (on-demand) : Usui Gynecological Oncology and Pathology: Molecular mechanism of development and pathology for gestational trophoblastic disease. Lectures on diagnosis and treatment of gestational trophoblastic disease</p> <p>6th (5/25) 2th period In-person (lecture room 2) : Ichikawa Genitourinary cancer : To study the precision medicine for prostate cancer</p> <p>7th (6/1) online (on-demand) : Takano Pancreatic cancer: Molecular mechanisms and EMT-MET plasticity in pancreatic cancer progression</p> <p>8th (6/8) 2th period In-person (lecture room 1) : Takiguchi Introduction to Cancer Chemotherapy:</p>

9回(6/15)2限 対面授業(大学院多目的スペース):岩立担当

※履修者数が多い場合はオンデマンド型オンライン授業で実施
脳神経外科学:

脳腫瘍の発生・進行のメカニズム、および診断、治療法について解説する。

10回(6/22)オンデマンド型メディア授業:早野担当
外科学2:

消化器外科の特殊性と関連する基本的事項(疾患、診断、治療、術前・術後管理など)について解説する。

11回(6/29)2限 対面授業(第3講義室):猪爪担当
皮膚腫瘍学:メラノーマの細胞生物学的、免疫学的特徴前立腺癌の新規治療法について解説する。

皮膚腫瘍:メラノーマ等皮膚腫瘍の発生機序と分子メカニズム、診断、治療について解説する。

12回(7/6)2限 対面授業(第2講義室):岸本担当
免疫病理学:

生体防御機構である炎症反応と、その異常によって発症するアレルギー、自己免疫疾患の病理学的基礎について解説する。

13回(7/13)オンデマンド型メディア授業:吉野担当
肺がん:

肺癌の発生機序と分子メカニズム、診断、治療について解説する。

14回(7/20)オンデマンド型メディア授業:池田担当
病理総論と診断病理学:

臨床医学特論を振り返り、腫瘍を中心に臨床各科における病理診断学を解説する。

～特別講義～

第15回 第1ターム(オンデマンド型メディア授業):榊田担当

ファイルアップロードのおよその目標:5月3週目

医療機器国際標準(低侵襲プラズマ止血機器):

低侵襲プラズマ止血機器に関する国際電気標準IEC 60601-2-76;2018に関する内容について概説する。

第16回 第2ターム(オンデマンド型メディア授業):清水担当

ファイルアップロードのおよその目標:7月1週目

低温大気圧プラズマを用いた創傷処置:

体温大気圧プラズマを用いた創傷処置、主に創傷上の殺菌に関する臨床研究について概説する。

※オンデマンド型メディア授業はMoodle上で実施します

To learn fundamental mechanisms of drug therapy for cancer, clinical pharmacology of anti-neoplastic agents, and rationale of combination therapy with it evaluation in clinical trials

9th (6/15) 2th period In-person(multipurpose room):Iwadate

※If there are many students, it will be lectured online (on-demand)

Neurosurgery:

Lecture on the diagnosis and treatment of brain tumors.

10th (6/22) online (on-demand):Hayano

Surgery II:

Lecture on basic articles including diseases, diagnosis, treatment, pre and post-operative management in gastroenterological surgery

11th (6/29) 2th period In-person (lecture room 3):Inozume

Dermatology: Biological and immunological characteristics of melanoma
Oncology and pathology for skin tumor. Lectures on diagnosis, treatment, and carcinogenesis of melanoma will be performed.

12th (7/6) 2th period In-person (lecture room 2):Kishimoto

Immunopathology:

1) Mechanism of inflammatory response

2) Pathological basis of allergy and autoimmune diseases

13th (7/13) online (on-demand):Yoshino

Lung cancer:

To study lung carcinogenesis and molecular targets of treatments for lung cancer.

14th (7/20) online (on-demand):Ikeda

General and diagnostic pathology:

1) General concept, Nomenclature, Classification, Etiology

2) Diagnostic pathology in hospital

～Special lecture～

15th T1 (online (on-demand)):Sakakita

File Upload: 3rd week of May

International Standardization of low-energy ionized gas haemostasis equipment:

To study the process of publication and contents on IEC 60601-2-76;2018 document

16th T2 (online (on-demand)):Shimizu

File Upload: 1st week of July

Wound treatment by cold atmospheric plasma:

We discuss clinical studies for wound treatment using cold atmospheric plasmas.

*On-demand lectures will be on Moodle

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">Self Study 授業外学習</p>	<p>参考書：適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。</p>	<p>Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">Evaluation 評価方法・基準</p>	<p>全講義の2/3以上の出席が確認された者を評価対象とし、講義内の小テスト・レポート等で総合的に判断する。 フィードバック：講義に関する質問等は、各回担当教員または、腫瘍病理学(path.chiba@gmail.com)へご連絡ください。 ゼミ形式のフィードバックを希望される方は、腫瘍病理学(path.chiba@gmail.com)へご連絡ください。</p>	<p>Judged by attendance, examination, reports, etc. Students who have attended more than 11 times (more than two of third in 16 lectures) are evaluated. Comprehensive judgment will be done based on short exams and reports requested in the lectures. Feedback : About questions in the lecture, please directly ask the instructors, or send an e-mail to the office of Tumor Pathology (path.chiba@gmail.com). Attendees who expect the free-discussion style feedback, please contact the staff in the department of Tumor Pathology (path.chiba@gmail.com).</p>

	<p>先端治療学特論</p>	<p>Advanced Therapy</p>	
	<p>科目責任者/Organizer: 横手 幸太郎</p>	<p>単位/Credit: 2</p>	<p>実施時期/Conducted: T1-2 火 (Tuesday) 1 時限 (1st period)</p>
	<p>連絡先/Email: ninai@office.chiba-u.jp</p>	<p>授業形態/Course type: 対面授業及びオンデマンド型メディア授業 In-person + online (on-demand)</p>	
<p>目的 Objectives</p>	<p>主に探索医療に関連する高度専門技術者をめざす学生を対象として、医学・薬学並びに関連する専攻分野に関連する専攻分野の基本知識や最先端の話題を提供し、豊かな知識を身につけ、応用力・理論的な思考力、広い視野、倫理観を養い、情報化・国際化が進む社会の中で医療・研究の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>	<p>In this course, the master students who are willing to work in the field of translational research learn the basic principles for the advanced therapies to set their own tasks and take intellectual knowledge to contribute to society.</p>	
<p>目標 Goals</p>	<p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 * 先端治療法の基本的原理、最新的话题を学ぶ * 豊かな知識を身につける * 応用力・問題解決能力・広い視野に立った発想力を養う</p>	<p>* Students will learn the basic principles of advanced treatment, the latest topics. * Students will acquire rich knowledge. * Students will cultivate application skills, problem-solving skills, and a broad perspective of imagination.</p>	
<p>授業計画・授業内容 Course Plans and Contents</p>	<p>全 15 回の講義からなり、オムニバス形式、Moodle によるオンデマンドでの実施 毎週火曜に 1 講義(第 1 週目は 2 講義)公開され、指定期間内に視聴する * 第 8 回のみ、医学部第 1 講義室での対面講義とする 第 1 回 4/13 (火) 内分泌疾患の分子病態 (横手教授, 鈴木先生) 第 2 回 4/13 (火) 造血性サイトカイン(G-CSF)による心筋梗塞の新たな治療法 (高野先生) 第 3 回 4/20 (火) 心血管疾患の病態生理に関する新知見 (宮内先生) 第 4 回 4/27 (火) 心筋再生とその臨床応用 (神田先生) 第 5 回 5/11 (火) 新生児学における最近の進歩 (大曾根先生) 第 6 回 5/18 (火) 小児神経疾患の先端治療学 (藤井先生) 第 7 回 5/25 (火) 小児感染性疾患の先端治療学 (菱木先生) 第 8 回 6/1 (火) 消化器病学におけるトランスレーショナルリサーチとリバーストランスレーショナルリサーチ (加藤教授) @ 第 1 講義室 第 9 回 6/8 (火) がん免疫療法の先端治療学 (本橋教授) 第 10 回 6/15 (火) 頭頸部癌の最新治療 (花澤教授) 第 11 回 6/22 (火) 核酸医療に実現を目指した先端 DDS 材料開発 (秋田教授) 第 12 回 6/29 (火) 人工膝関節について (鈴木教授) 第 13 回 7/6 (火) 2 型糖尿病治療に対する外科的アプローチ(林教授) 第 14 回 7/13 (火) がん治療の基盤とその臨床応用(永瀬先生) 英語 第 15 回 7/20 (火) 血液学における先端治療 (武藤先生)</p>	<p>On-demand on Moodle * 6/1 will be in-person @lecture room1 1) April 13 (Tue) Molecular pathogenesis of endocrine disease (Suzuki) 2) April 13 (Tue) Advanced therapies for G-CSF therapy for myocardial infarction (Takano) 3) April 20 (Tue) Cardiovascular continuum ; Current topics of cardiovascular disease (Miyouchi) 4) April 27 (Tue) Cardiac regeneration and its clinical application (Kanda) 5) May 11 (Tue) Recent advances in Neonatology (Ohsone) 6) May 18 (Tue) Recent advances in neurological diseases in childhood (Fujii) 7) May 25 (Tue) Recent advances in pediatric infectious diseases (Hishiki) 8) June 1 (Tue) * Translational Research and Reverse Translational Research in Gastroenterology (Kato) 9) June 8 (Tue) Latest advances in cancer Immunotherapy (Motohashi) 10) June 15 (Tue) Recent advances in head & neck cancer(Hanazawa) 11) June 22 (Tue) Advanced nanoDDS technologies towards nucleic acid therapy (Akita) 12) June 29 (Tue) Artificial knee joint (Suzuki) 13) July 6(Tue) Surgical approaches to treat type 2 diabetes (Hayashi) 14) July 13 (Tue) Fundamental technology and clinical application of oncotherapy (Nagase) English 15) July 20 (Tue) Advanced therapies for hematology (Muto)</p>	
<p>授業外学習 Self Study</p>	<p>授業終了後、各講義で配布されたプリントなどを用いて復習する。 参考書 : 適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。</p>	<p>Review by reading references and handouts. Materials : Reference readings will be suggested, and handouts are provided when needed.</p>	
<p>評価方法・基準 Evaluation</p>	<p>授業態度、テスト、レポート等で総合的に判断する フィードバック : レポートについてはコメントを付して返却する。各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Evaluated by learning attitude, examination, reports, etc. Feedback : Report will be returned with a comment. Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>	

	公衆衛生学特論	Public health
	科目責任者/Organizer: 訪園 靖 / Yasushi Suwazono	単位/Credit: 2
	連絡先/Email: suwa@faculty.chiba-u.jp	実施時期/Conducted: T1-2
目的 Objectives	公衆衛生学は、衛生行政、地域保健（母子保健、学校保健、老人保健、精神保健）、環境・産業保健にわたることができる。これらの公衆衛生全般の知識を学習する。	Public health addresses the health of the population as a whole rather than medical health care, which focuses on treatment of the individual ailment. The mission of public health is defined as "fulfilling society's interest in assuring conditions in which people can be healthy."
目標 Goals	本特論では、実際の現場のニーズに応えられる人材育成が求められることから、疫学および医学統計学の基礎的な知識と方法を学習し、実際の事例を使って、実践的な能力獲得を目指す。	Goals of this course would be to learn basic knowledge and methodology of public health, and to consider application to overcome public health issues in the society.
授業計画・授業内容 Course Plans and Contents	<p>1回 (4/14) : 諏訪園担当 公衆衛生学総論「健康の定義, 予防医学, 健康指標, 公衆衛生活動」</p> <p>2回 (4/21) : 尾内担当 母子保健・学校保健「母子保健, 学校保健の現状と課題」</p> <p>3回 (4/28) : 近藤担当 超高齢社会の高度専門職に求められるもの</p> <p>4回 (5/5) : 近藤担当 健康格差社会と健康の社会的決定要因</p> <p>5回 (5/12) : 諏訪園担当 疫学総論「疫学の定義と歴史について」</p> <p>6回 (5/12) : 櫻井(勝)担当 疫学の方法「職域における疫学研究の実際」</p> <p>7回 (5/19) : 尾内担当 医学統計学-1「医学統計学の知識, 方法」</p> <p>8回 (5/26) : 尾内担当 医学統計学-2「医学統計学の知識, 方法」</p> <p>9回 (6/2) : 能川担当 環境衛生学1「環境中毒学について1」</p> <p>10回 (6/9) : 能川担当 環境衛生学2「環境中毒学について2」</p> <p>11回 (6/16) : 上谷担当 産業衛生1</p> <p>12回 (6/23) : 上谷担当 産業衛生2</p> <p>13回 (6/30) : 東川担当 産業保健各論「働き方の変化と課題について」</p> <p>14回 (7/7) : 櫻井(健)担当 環境保健総論「生活習慣病の現状と予防について~糖尿病をモデルとして~」</p> <p>15回 (7/14) : 戸高担当 環境保健各論「次世代のために, 環境をどのように守っていくか」</p> <p>※オンデマンド型メディア授業は Moodle 上で実施します。</p>	<p>1 (4/14) Suwazono Introduction. Definition of health, preventive medicine, public health</p> <p>2 (4/21) Onouchi Maternal and child health</p> <p>3 (4/28) Kondo Expected role for highly-skilled professionals in a super-aging society</p> <p>4 (5/5) Kondo Health inequality society and social determinants of health</p> <p>5 (5/12) Suwazono Introduction of epidemiology</p> <p>6 (5/12) Sakurai (M) Practice of epidemiological research in the workplace</p> <p>7 (5/19) Onouchi Biostatistics 1</p> <p>8 (5/26) Onouchi Biostatistics 2</p> <p>9 (6/2) Nogawa Environmental toxicology and hygiene 1</p> <p>10 (6/9) Nogawa Environmental toxicology and hygiene 2</p> <p>11 (6/16) Uetani Occupational health 1</p> <p>12 (6/23) Uetani Occupational health 2</p> <p>13 (6/30) Higashikawa Recent reform of working style</p> <p>14 (7/7) Sakurai(K) The state and prevention of life style related diseases</p> <p>15 (7/14) Todaka Environmental Health for Future Generations</p> <p>*On-demand lectures will be on Moodle</p>
授業外学習 Self Study	<p>本講義で取り扱っている内容は、医学研究における基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義内容を復習し自分のものにする。</p> <p>参考書：適宜、参考書を紹介し、資料等を配布する。</p>	<p>The content in this lecture is the basis of medical research, requires accurate understanding, and is the content that participants will need in the future. Therefore, review the content of the lecture after each session and make it your own.</p> <p>Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>
評価方法・基準 Evaluation	<p>各回の小テスト、レポートで評価する。</p> <p>フィードバック : 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Evaluated by examination and reports, etc.</p> <p>Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>

遺伝情報応用学特論		Advanced Basic and Clinical Genetics
科目責任者/Organizer: 田中 知明		単位/Credit: 2
連絡先/Email: tomoaki@restaff.chiba-u.jp		実施時期/Conducted: T1,T2
授業形態/Course type:		Moodle によるメディア授業/Media Class using Moodle
目的 Objectives	あらゆる領域の疾患の遺伝的要因が日々明らかにされつつある現在、遺伝子・染色体を含む遺伝学的検査や遺伝医学が診療と密接に関わってきている。一方、法医学領域の個人識別においてもDNA情報は不可欠である。	Virtually any disease is the result of the combined action of genes and environment, but growing evidence indicates the increasing roles of the latter. Consequently, genetics and genetic testing are now closely related to medical treatment, as genetic factors of diseases in various fields.
目標 Goals	しかし、これらの遺伝情報を扱うにあたっては倫理的諸問題に対する十分な配慮が求められる。本コースではヒトの遺伝の仕組み、その遺伝情報の取り扱い方について多角的に学ぶ。	However, when handling this genetic information, sufficient consideration of ethical issues is required. Here, we will learn about the human genetic system and how to handle genetic information from various perspectives.
授業計画・授業内容 Course Plans and Contents	<p>全て Moodle を通じたメディア授業（オンデマンド型）で実施する</p> <p><公衆衛生学> 1-4 回</p> <p>第 1-2 回 (4/12・4/19) 尾内 第 3-4 回 (4/26・5/10) 関根</p> <p>臨床遺伝について「家系図の作成・メンデル遺伝の基礎を学ぶ」単一遺伝子病について学ぶ、細胞遺伝について学ぶ、ミトコンドリア遺伝・多因子遺伝について学ぶ、ゲノム医学研究の現状について学ぶ</p> <p><分子病態解析学> 5-11 回</p> <p>第 5 回 (5/17)西村: 遺伝医療と生命倫理:「遺伝医療に関連する解析技術、ガイドラインとバイオエシックスについて学ぶ」、遺伝カウンセリングの意義と実際:「遺伝カウンセリングの意義について学ぶ」「遺伝カウンセリングの実際について実例をもとに学ぶ」</p> <p>第 6 回 (5/24)田中:「内分泌疾患とゲノム」 第 7 回 (5/31)井上:「老年医学と加齢関連疾患におけるゲノム」 第 8 回 (6/7)横山:「心・血管疾患とゲノム」 第 9 回 (6/14)松下:「がんとクリニカルシーケンス」 第 10 回 (6/21)川上:「医学研究におけるオミクスデータの利活用」 第 11 回 (6/28)樋口: ヒトゲノムの先端「ゲノム技術」</p> <p><法医学> 12-15 回</p> <p>第 12-15 回 (7/5・7/12・7/12・7/19)岩瀬</p> <p>法医学総論「法医学の存在意義と、その目的について学ぶ」 法医学と法律、ガイドライン「法医学における鑑定試料に関する法規定とガイドラインに関する知識を修得する」 親子鑑定、現場試料における遺伝情報「親子鑑定の方法や、そのガイドライン、その他現場試料における遺伝情報の有用性に関して学ぶ」 個人識別「身元不明死体に関する個人識別の方法を学ぶ」</p>	<p>All lectures will be on Moodle (on-demand).</p> <p><Public Health>1st-4th</p> <p>1st-2th (4/12・4/19) Y Onouchi 3th-4th (4/26・5/10) A Sekine</p> <p>Introduction and learn about clinical genetics, the basics of genealogy, mendelian inheritance and single gene diseases. Learn about mitochondrial and multifactorial inheritance, current status of genomic medicine</p> <p><Molecular Pathogenesis & Diagnosis> 5th-11th</p> <p>5th (5/17) M Nishimura: Genetic medicine and bioethics: Learn about analytical techniques, guidelines and bioethics related to genetic medicine, meaning and practice of Genetic Counseling: Learn about the meanings of genetic counseling with actual cases.</p> <p>6th (5/24) T Tanaka: Endocrine disorders and genetics 7th (5/31) S Inoue: Introduction of gerontology and genetics 8th (6/7) M Yokoyama: Cardiovascular disease and genetics 9th (6/14) K Matsushita: Cancer and clinical sequencing 10th (6/21) E Kawakami: Medical genetics and utilization of omics data in medical research 11th (6/28) S Higuchi: Advanced genome technology for the human genome</p> <p><Legal Medicine>12th-15th</p> <p>12th-15th (7/5・7/12・7/12・7/19) H Iwase: Introduction of forensic medicine Laws and guidelines in forensic medicine DNA paternity testing Personal identification</p>
授業外学習 Self Study	参考書: 適宜、参考書を紹介し、プリント等を Moodle 等で配布する。	Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required (on Moodle).
評価方法・基準 Evaluation	出席状況（オンデマンド聴講）による基礎得点を評価する（60%）。加えて、講義内容および感想と考察について、レポートを提出（40%）。それらを総合的に評価する。 フィードバック : 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。	You can get a basic score evaluation (60%) based on attendance status (on-demand). Submit a report on the content of the lessons and considerations of the lecture (40%). Evaluate them comprehensively. Feedback : Those who wish to have a feedback should contact the instructor.

サステイナブル環境健康科学		Sustainable Health Sciences
科目責任者/Organizer: 森 千里 Chisato Mori	単位/Credit: 1	実施時期/Conducted: 集中講義 Intensive Course
連絡先/Email: cmori@faculty.chiba-u.jp	授業形態/Course type: 対面講義およびオンデマンド型メディア講義	In-person + online (on-demand)
<p>近年、サステイナブル(持続可能)な社会の実現が求められている。また、「環境」と「健康」に関する医科学をベースとした専門知識のニーズが高まっている。21世紀は「環境の時代」または「予防医学の時代」とも言われるが、現世代を基準とするのではなく未来世代を基準とした持続可能な地球環境を創造する上では、未来世代が健康に暮らしていける環境が必須条件である。本授業科目では、予防医学、環境要因・社会要因と健康、生活習慣病に関する疫学、そして未来世代を基準とした環境要因由来の疾病対策としての環境改善型予防医学を発展させた「サステイナブル環境健康科学」について学習する機会を提供する。</p>	<p>General Instruction Objective (GIO) : This course will provide recent findings and knowledge about environment & human health, epidemiology & risk factors of common diseases, and new preventive medicine or public health focusing on future generations, "Sustainable Health Science". In medical science, it is said that 21st century is the era of preventive medicine. In regard to environmental & social health science, it is necessary to advocate this idea to improve the society so that the possible adverse health effect from environment can be prevented by social effort. The purpose of this course is to provide the information of sustainable health science to the students.</p>	
<p>『環境』と『健康』に関する医科学的専門知識を学び、環境改善型予防医学を実践する人材を育成する。</p>	<p>To learn medical and technical knowledge regarding the environment and health. To grow human resource who could practice and advocate "Environmental Preventive Medicine".</p>	
<p>全8回授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。 対面講義は第1講義室にて実施</p> <p><第1、2回、3回> 8月4日(水) I時限(8:50~10:20)、II時限(10:30~12:00)、 III時限(12:50~14:20) 対面授業 担当: 森 千里、戸高 恵美子、中岡 宏子 テーマ: ・ サステイナビリティ学 総論 ・ 環境健康学・予防医学 ・ 未来世代を基準としたサステイナブル環境健康科学 総論</p> <p><第4回> 8月5日(木) I時限(8:50~10:20) 対面授業 担当: 櫻井 健一 テーマ: 環境要因を考慮した生活習慣病の予防 ・ 生活習慣病のリスク因子としての環境 ・ 生活習慣の介入による予防 ・ 予防および治療介入におけるコミュニケーション</p> <p><第5回> 8月5日(木) II時限(10:30~12:00) 対面授業 担当: 山本 緑 テーマ: 環境疫学とコホート研究 ・ 疫学研究方法 ・ コホート研究の実例 ・ コホート研究実施手法</p>	<p>In-person lectures will be held at Lecture room 1.</p> <p><No.1, 2,3> August 4 (Wed) I, II, III period (8:50~14:20) In-person Lecturers : Chisato Mori, Emiko Todaka, Hiroko Nakaoka Subject : Sustainability Sciences and Primordial Prevention ・ Introduction of Sustainability Science. ・ Environmental Health Science & Preventive Medicine ・ Outline of new preventive medicine or public health focusing on future generations, "Sustainable Health Science"</p> <p><No.4> August 5 (Thu) I period (8:50~10:20) In-person Lecturer: Kenichi Sakurai Subject : Prevention of lifestyle-related diseases in consideration of the environmental factors ・ Risk factors for non-communicable diseases (NCD) ・ Life style intervention ・ Prevention and treatment of NCD and communication</p> <p><No.5> August 5 (Thu) II period (10:30~12:00) In-person Lecturer : Midori Yamamoto Subject : Environmental Epidemiology and Cohort Study ・ Epidemiology research method ・ Actual cases of cohort studies ・ Practice of cohort studies</p>	

<第6回> オンデマンド型メディア授業 (Moodle) *
 (視聴期間：2021年7月15日～8月15日)
 担当：江口 哲史
 テーマ：ヒトへの残留性有機汚染物質 (POPs) の曝露影響について
 PCBs, PBDEs などの残留性有機汚染物質の曝露とヒトの健康との関連について、日本だけでなくアジアなどの話を交えて解説する。また、これらの曝露による内因性ホルモン恒常性や代謝機能の攪乱についても解説する。

<第7回> オンデマンド型メディア授業 (Moodle) *
 (視聴期間：2021年7月15日～8月15日)
 担当：花里真道
 テーマ：健康都市・空間デザイン論 I
 ・健康と建造環境
 ・研究事例
 ・プロジェクト事例

<第8回> オンデマンド型メディア授業 (Moodle) *
 (視聴期間：2021年7月15日～8月15日)
 担当：鈴木規道
 テーマ：健康都市・空間デザイン論 II
 ・研究事例
 -フードデザート問題
 -近隣の植栽環境と健康影響
 -住環境と健康

*オンデマンド型メディア授業は Moodle 上で実施します。

<No.6> On-demand (Moodle) *
 Viewing period (Jul 15-Aug 15, 2021)
 Lecturer : Akifumi Eguchi
 Subject : Human health risks of persistent organic pollutants (POPs) We will explain the relationship between exposure to persistent organic pollutants such as PCBs and PBDEs to human health. We will also explain the disruption of endogenous hormone homeostasis and metabolic function associated with these exposures.

<No.7> On-demand (Moodle) *
 Viewing period (Jul 15-Aug 15, 2021)
 Lecturer : Masamichi Hanazato,
 Seminar : Healthy Cities and Spatial Design Theory I
 ・ Built environment and health
 ・ Research of built environment and health
 ・ Projects of built environment and health

<No.8> On-demand (Moodle) *
 Viewing period (Jul 15-Aug 15, 2021)
 Lecturer : Norimichi Suzuki,
 Seminar : Healthy Cities and Spatial Design Theory II
 ・ Research of built environment and health
 -Food Deserts Issue
 -Green space and health
 -Living environment and health

*On-demand lectures will be on Moodle.

Self Study
 授業外学習

参考書：適時参考書を紹介し、プリント等を配布する。

Materials : Reference books will be shown, and handouts will be provided when required.

Evaluation
 評価方法・基準

授業への積極的な参加、レポート、小テスト等で総合的に判断する。

Students are encouraged to actively participate in the classes. Students will be evaluated by reports, quizzes etc.

フィードバック :
 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること

Feedback :
 Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.

メンタルヘルスサポート学特論		Cognitive behavioral science for mental health support
科目責任者/Organizer: 清水 栄司 / Eiji SHIMIZU		単位/Credit: 2
連絡先/Email: eiji@faculty.chiba-u.jp		実施時期/Conducted: T1,T2,T3
授業形態/Course type :		独自配信システムによりオンデマンド型メディア授業 /online (on-demand) on original e-learning system
目的 /Objectives	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため基礎的実践を理解する。	In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.
目標 /Goals	受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・低強度の認知行動療法について説明できる。 ・精神科診断や薬物治療について理解し、質問紙を活用できる。 ・認知行動療法の技法を活用できる。	GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand the low-intensity therapy. SBO (Specific Behavioral Objective): students will be able to explain the basic knowledge, which is required for cognitive behavioral therapy.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	全 15 回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。すべてオンデマンド型メディア授業 第 1 回 4/14 (水) 低強度の認知行動療法とは何か? (清水先生/廣瀬先生) 第 2 回 4/21 (水) 構造化面接を用いた精神科診断(STEP1) (久能先生/高橋先生) 第 3 回 4/28 (水) 精神科における適正な鑑別診断と薬物療法 (伊豫先生) 第 4 回 5/12 (水) 認知行動モデルの作成と心理教育(STEP2) (高橋先生/久能先生) 第 5 回 5/19 (水) 認知再構成(コラム法) (STEP3) (沼田先生/関先生) 第 6 回 5/26 (水) 行動の変容 (行動活性化あるいは段階的曝露) (STEP4) (関先生/沼田先生) 第 7 回 6/2 (水) 問題解決法とアサーション (STEP5) (関先生/沼田先生) 第 8 回 6/9 (水) 認知療法尺度(CRS-R)によるセッションの理解 (前編) (清水先生/廣瀬先生) 第 9 回 6/16 (水) 認知療法尺度(CRS-R)によるセッションの理解 (後編) (清水先生/廣瀬先生) 第 10 回 6/23 (水) 不眠症のインターネット認知行動療法プログラム (廣瀬先生/佐藤先生) 第 11 回 6/30 (水) マインドフルネス (伊藤先生) 第 12 回 7/7 (水) 服薬指導および歯科診療における認知行動療法 (廣瀬先生/清水先生) 第 13 回 7/14 (水) 勇者の旅プログラム(前編) (浦尾先生/小柴先生) 第 14 回 7/21 (水) 勇者の旅プログラム(後編) (浦尾先生/小柴先生) 第 15 回 7/28 (水) 強迫症・自閉スペクトラム症の高強度認知行動療法 (中川先生/大島先生) 独自の配信システム (メンサポ・メンプロ/CBT ラーニング) で配信。 履修については、事前に認知行動生理学研究室へ連絡必須。 連絡先: 認知行動生理学研究室 neurophys1@ml.chiba-u.jp	1) April 14 (Wed) What is low-intensity therapy? (Shimizu, Hirose) 2) April 21 (Wed) Psychiatric diagnosis using semi-structured interview (MINI and MINI-Kids) and severity evaluation using questionnaires (PHQ-9, GAD-7, SCAS, DSRSC, Athens Insomnia Scale) (STEP1) (Kuno, Takahashi) 3) April 28 (Wed) Appropriate diagnosis and medical therapy in psychiatry (Iyo) 4) May 12 (Wed) Cognitive-behavioral model and psychoeducation (STEP2) (Takahashi, Kuno) 5) May 19 (Wed) Cognitive reconstruction (Column methods) (STEP3) (Numata, Seki) 6) May 26 (Wed) Behavior Modification (Behavioral activation, Graded exposure) (STEP4) (Seki, Numata) 7) June 2 (Wed) Problem Solution Training, Assertion (STEP5) (Seki, Numata) 8) June 9 (Wed) The understanding of sessions by Cognitive Therapy Scale-Revised (CTS-R) (STEP6) (Part 1) (Shimizu, Hirose) 9) June 16 (Wed) The understanding of sessions by Cognitive Therapy Scale-Revised (CTS-R) (STEP6) (Part 2) (Shimizu, Hirose) 10) June 23 (Wed) Internet-delivered computerized cognitive behavioral therapy program for patients with insomnia (ICBT) (Hirose, Sato) 11) June 30 (Wed) Mindfulness (Ito) 12) July 7 (Wed) Cognitive behavioral therapy in odontotherapy and medication counseling (Hirose, Shimizu) 13) July 14 (Wed) "Journey of the Brave" program (1st session) (Urao, Koshiba) 14) July 21 (Wed) "Journey of the Brave" program (2nd session) (Urao, Koshiba) 15) July 28 (Wed) High-intensity Cognitive Behavioral Therapy for Obsessive-Compulsive Disorder and Autism Spectrum Disorder (ASD) (Nakagawa, Oshima) Those who wish to take this course need to contact neurophys1@ml.chiba-u.jp beforehand.

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">授業外学習 / Self Study</p>	<p>本科目はすべてオンデマンド授業であり、e-learning の利点を生かし、各回の内容を繰り返し視聴し、ノートにまとめたり、関連する書籍や文献で、認知行動療法に関する知識と理解を確認したりすること</p> <p>参考書：自分でできる認知行動療法（うつと不安の克服法）清水栄司（星和書店）、勇者の旅ワークブック 浦尾悠子、MINI—精神疾患簡易構造化面接法 日本語版 5.0.0（星和書店）その他、適宜、参考書を紹介します、プリント等を配布する。</p>	<p>Watch the recorded contents repeatedly using e-learning, create summary notes, and check your knowledge about cognitive behavioral therapy from related books and literature.</p> <p>Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">評価方法・基準 / Evaluation</p>	<p>各回の講義について、テストを行い、総合的に判断する。</p> <p>フィードバック：各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Judged by tests, etc.</p> <p>Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>

メンタルヘルスエクセルシオール演習		Mental health excelsior practice
科目責任者/Organizer: 清水 栄司 / Eiji SHIMIZU		単位/Credit: 2
連絡先/Email: eiji@faculty.chiba-u.jp		実施時期/Conducted: T3,T4,T5
連絡先/Email: eiji@faculty.chiba-u.jp		授業形態/Course type: オンデマンド型メディア授業 online (on-demand)
目的 Objectives	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため、メンタルヘルスにおける実践を理解する。	・ In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.
目標 Goals	受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・ うつ、不安などの問題を抱える患者に対して行われる認知行動療法の症例を検討することで、メンタルヘルス相談支援の実践を理解し、メンタルサポート医療人とメンタルプロフェッショナルとの多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル等）の連携を身につける。	GIO (General Instructional Objective): students will understand the practice of consultation support in mental health by studying the case of cognitive behavioral therapy performing to patients with problems such as depression and anxiety. In addition, students are expected to acquire cooperation between health professionals. SBO (Specific Behavioral Objective): students will learn how to proceed sessions according to case assessment.
授業計画・授業内容 Course Plans and Contents	全 15 回の演習からなり、認知行動療法の症例を検討するとともに、メンタルサポート医療人とメンタルプロフェッショナルとの多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル等）の連携を身につける。すべてオンデマンド型メディア授業。 第 1 回 9/8 (水) 認知行動療法の症例検討 (清水先生) 第 2 回 9/15 (水) 認知行動療法の症例検討 (中川先生) 第 3 回 9/22 (水) 認知行動療法の症例検討 (伊藤先生) 第 4 回 9/29 (水) 認知行動療法の症例検討 (大島先生) 第 5 回 10/6 (水) 認知行動療法の症例検討 (浦尾先生) 第 6 回 10/13 (水) 認知行動療法の症例検討 (久能先生) 第 7 回 10/20 (水) 認知行動療法の症例検討 (高橋先生) 第 8 回 10/27 (水) 認知行動療法の症例検討 (関先生) 第 9 回 11/10 (水) 認知行動療法の症例検討 (沼田先生) 第 10 回 11/17 (水) 認知行動療法の症例検討 (清水先生) 第 11 回 11/24 (水) 認知行動療法の症例検討 (中川先生) 第 12 回 12/1 (水) 認知行動療法の症例検討 (伊藤先生) 第 13 回 12/8 (水) 認知行動療法の症例検討 (大島先生) 第 14 回 12/15 (水) 認知行動療法の症例検討 (浦尾先生) 第 15 回 12/22 (水) 認知行動療法の症例検討 (久能先生) 独自の配信システム (メンサポ・メンプロ/CBT ラーニング) で配信。 履修については、事前に認知行動生理学研究室へ連絡必須。 連絡先: 認知行動生理学研究室 neurophys1@ml.chiba-u.jp	1) Sep 8 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Shimizu) 2) Sep 15 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Nakagawa) 3) Sep 22 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Ito) 4) Sep 29 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Oshima) 5) Oct 6 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Urao) 6) Oct 13 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Kuno) 7) Oct 20 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Takahashi) 8) Oct 27 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Seki) 9) Nov 10 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Numata) 10) Nov 17 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Shimizu) 11) Nov 24 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Nakagawa) 12) Dec 1 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Ito) 13) Dec 8 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Oshima) 14) Dec 15 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Urao) 15) Dec 22 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Kuno) Those who wish to take this course need to contact neurophys1@ml.chiba-u.jp beforehand.
授業外学習 Self Study	本科目はすべてオンデマンド授業であり、e-learning の利点を生かし、各回の内容を繰り返し視聴し、ノートにまとめたり、関連する書籍や文献で、認知行動療法に関する知識と理解を確認したりすること 参考書: 適宜, 参考書を紹介し, プリント等を配布する。	Watch the recorded contents repeatedly using e-learning, create summary notes, and check your knowledge about cognitive behavioral therapy from related books and literature. Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 Evaluation	各回の症例検討会について、要約などをレポートにて提出し、総合的に判断する。 フィードバック: 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。	Judged by reports, etc. Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.

	<p>メンタルヘルスサポート学特論Ⅱ ※メンタルサポート医療人養成コース修了者が履修可能</p>	<p>Cognitive behavioral science for mental health supportⅡ</p>	
	<p>科目責任者/Organizer: 清水 栄司 / Eiji SHIMIZU</p>	<p>単位/Credit: 1</p>	<p>実施時期/Conducted: T1,T2</p>
	<p>連絡先/Email: eiji@faculty.chiba-u.jp</p>	<p>授業形態/Course type: 独自配信システムによりオンデマンド型メディア授業 /online (on-demand) on original e-learning system</p>	
<p>目的 Objectives</p>	<p>医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため基礎的实践を理解する。</p>	<p>・ In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.</p>	
<p>目標 Goals</p>	<p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低強度の認知行動療法について説明できる。 ・ 精神科診断や薬物治療について理解し、質問紙を活用できる。 ・ 認知行動療法の技法を活用できる。 	<p>GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand the low-intensity therapy. SBO (Specific Behavioral Objective): students will be able to explain the basic knowledge, which is required for cognitive behavioral therapy.</p>	
<p>授業計画・授業内容 Course Plans and Contents</p>	<p>全8回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。すべてオンデマンド型メディア授業</p> <p>第1回 4/14 (水) 歯科心身症の見方と対応—認知行動療法的アプローチと医療連携— (和気先生)</p> <p>第2回 4/21 (水) 『周産期メンタルヘルス』 ~とくに産後うつの評価と連携構築~ (渡邊先生)</p> <p>第3回 4/28 (水) ギャンブル依存の認知行動療法(古野先生)</p> <p>第4回 5/12 (水) うつ病の行動活性化療法(概論編) (鈴木先生)</p> <p>第5回 5/19 (水) うつ病の行動活性化療法(実践編) (鈴木先生)</p> <p>第6回 5/26 (水) 司法・犯罪分野における認知行動療法(嶋田先生/野村先生)</p> <p>第7回 6/2 (水) メンタルヘルスの労災問題 (前編) 精神障害の労災認定後の基本 (黒木先生)</p> <p>第8回 6/9 (水) メンタルヘルスの労災問題 (後編) 精神障害の労災認定後の課題 (黒木先生) /精神疾患による休職と 職場復帰にかかわる問題 (五十嵐先生)</p> <p>独自の配信システム (メンサポ・メンプロ/CBT ラーニング) で配信。 履修については、事前に認知行動生理学研究室へ連絡必須。 連絡先: 認知行動生理学研究室 neurophys1@ml.chiba-u.jp</p>	<p>1) April 14 (Wed) Examination and management of psychosomatic dentistry-Cognitive behavioral approach and medical cooperation- (Wake)</p> <p>2) April 21 (Wed) ""Perinatal mental health""~Focusing on the evaluation of postpartum depression and cooperation~ (Watanabe)</p> <p>3) April 28 (Wed) Cognitive behavioral therapy for gambling addiction (Furuno)</p> <p>4) May 12 (Wed) Behavioral activation for depression 1 (Suzuki)</p> <p>5) May 19 (Wed) Behavioral activation for depression 2(Suzuki)</p> <p>6) May 26 (Wed) Cognitive behavioral therapy in judicial and criminal field (Shimada, Nomura)</p> <p>7) June 2 (Wed)Work place mental health injury1: Basics of after certification of work place mental health injury (Kuroki)</p> <p>8) June 9 (Wed)Work place mental health injury1: Issues of after certification of work place mental health injury (Kuroki)/ Leave of absence by mental disorder and problems at returning to work (Igarashi)</p> <p>Those who wish to take this course need to contact neurophys1@ml.chiba-u.jp beforehand.</p>	
<p>授業外学習 Self Study</p>	<p>本科目はすべてオンデマンド授業であり、e-learning の利点を生かし、各回の内容を繰り返し視聴し、ノートにまとめたり、関連する書籍や文献で、認知行動療法に関する知識と理解を確認したりすること</p> <p>参考書: 自分でできる認知行動療法 (うつと不安の克服法) 清水栄司 (星和書店)、その他、適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。</p>	<p>Watch the recorded contents repeatedly using e-learning, create summary notes, and check your knowledge about cognitive behavioral therapy from related books and literature.</p> <p>Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>	
<p>評価方法・基準 Evaluation</p>	<p>各回の講義について、テストを行い、総合的に判断する。</p> <p>フィードバック: 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Judged by tests, etc.</p> <p>Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>	

授業コード: J276009AB

	<p>メンタルヘルスエクセルシオール演習Ⅱ ※メンタルサポート医療人養成コース修了者が履修可能</p>	<p>Mental health excelsior practiceⅡ</p>	
	<p>科目責任者/Organizer: 清水 栄司 / Eiji SHIMIZU</p>	<p>単位/Credit: 1</p>	<p>実施時期/Conducted: T3,T4</p>
	<p>連絡先/Email: eiji@faculty.chiba-u.jp</p>	<p>授業形態/Course type: オンデマンド型メディア授業 online (on-demand)</p>	
<p>目的 Objectives</p>	<p>医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため、メンタルヘルスにおける実践を理解する。</p>	<p>・ In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.</p>	
<p>目標 Goals</p>	<p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・うつ、不安などの問題を抱える患者に対して行われる認知行動療法の症例を検討することで、メンタルヘルス相談支援の実践を理解し、メンタルサポート医療人とメンタルプロフェSSIONナルとの多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル等）の連携を身につける。</p>	<p>GIO (General Instructional Objective): students will understand the practice of consultation support in mental health by studying the case of cognitive behavioral therapy performing to patients with problems such as depression and anxiety. In addition, students are expected to acquire cooperation between health professionals. SBO (Specific Behavioral Objective): students will learn how to proceed sessions according to case assessment.</p>	
<p>授業計画・授業内容 Course Plans and Contents</p>	<p>全8回の演習からなり、認知行動療法の症例を検討するとともに、メンタルサポート医療人とメンタルプロフェSSIONナルとの多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル等）の連携を身につける。すべてオンデマンド型メディア授業。</p> <p>第1回 10/6（水）認知行動療法の症例検討（清水先生） 第2回 10/13（水）認知行動療法の症例検討（中川先生） 第3回 10/20（水）認知行動療法の症例検討（浦尾先生） 第4回 10/27（水）認知行動療法の症例検討（伊藤先生） 第5回 11/10（水）認知行動療法の症例検討（久能先生） 第6回 11/17（水）認知行動療法の症例検討（大島先生） 第7回 11/24（水）認知行動療法の症例検討（高橋先生） 第8回 12/1（水）認知行動療法の症例検討（沼田先生）</p> <p>独自の配信システム（メンサポ・メンプロ/CBTラーニング）で配信。 履修については、事前に認知行動生理学研究室へ連絡必須。 連絡先: 認知行動生理学研究室 neurophys1@ml.chiba-u.jp</p>	<p>1) Oct 6 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Shimizu) 2) Oct 13 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Nakagawa) 3) Oct 20 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Urao) 4) Oct 27 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Ito) 5) Nov 10 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Kuno) 6) Nov 17 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Oshima) 7) Nov 24 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Takahashi) 8) Dec 1 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Numata)</p> <p>Those who wish to take this course need to contact neurophys1@ml.chiba-u.jp beforehand.</p>	
<p>授業外学習 Self Study</p>	<p>本科目はすべてオンデマンド授業であり、e-learningの利点を生かし、各回の内容を繰り返し視聴し、ノートにまとめたり、関連する書籍や文献で、認知行動療法に関する知識と理解を確認したりすること</p> <p>参考書: 適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。</p>	<p>Watch the recorded contents repeatedly using e-learning, create summary notes, and check your knowledge about cognitive behavioral therapy from related books and literature.</p> <p>Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>	
<p>評価方法・基準 Evaluation</p>	<p>各回の症例検討会について、要約などをレポートにて提出し、総合的に判断する。</p> <p>フィードバック: 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Judged by reports, etc.</p> <p>Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>	

<p style="text-align: center;">メンタルヘルスサポート学特論Ⅲ ※メンタルサポート医療人養成コース修了者が履修可能</p>		<p style="text-align: center;">Cognitive behavioral science for mental health supportⅢ</p>
<p>科目責任者/Organizer: 清水 栄司 (Shimizu Eiji)</p>	<p>単位/Credit: 1</p>	<p>実施時期/Conducted: T1</p>
<p>連絡先/Email: eji@faculty.chiba-u.jp</p>	<p>授業形態/Course type: 独自配信システムによりオンデマンド型メディア授業 /online (on-demand) on original e-learning system</p>	
<p>目的 / Objectives</p>	<p>医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため基礎的実践を理解する。</p>	<p>・ In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.</p>
<p>目標 / Goals</p>	<p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低強度の認知行動療法について説明できる。 ・ 精神科診断や薬物治療について理解し、質問紙を活用できる。 ・ 認知行動療法の技法を活用できる。 	<p>GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand the low-intensity therapy. SBO (Specific Behavioral Objective): students will be able to explain the basic knowledge, which is required for cognitive behavioral therapy.</p>
<p>授業計画・授業内容 / Course Plans and Contents</p>	<p>全8回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。すべてオンデマンド型メディア授業</p> <p>第1回 4/14 (水) ストレスコーピング (伊藤先生) 第2回 4/21 (水) もし CBT の最中に、子供の不適切養育が疑われたら・・・どうする? (高岡先生) 第3回 4/28 (水) パニック症の認知行動療法 前編(関先生) 第4回 5/12 (水) パニック症の認知行動療法 後編 (関先生) 第5回 5/19 (水) 社交不安症の認知行動療法 前編 (清水先生) 第6回 5/26 (水) 社交不安症の認知行動療法 後編 (清水先生) 第7回 6/2 (水) 自閉スペクトラム症の心理査定について/心理査定 (心理アセスメント) (大島先生/田口先生) 第8回 6/9 (水) 低強度認知行動療法の実際 (ロールプレイうつ病編) (清水先生)</p> <p>独自の配信システム (メンサポ・メンプロ/CBT ラーニング) で配信。 履修については、事前に認知行動生理学研究室へ連絡必須。 連絡先: 認知行動生理学研究室 neurophys1@ml.chiba-u.jp</p>	<p>1) April 14 (Wed) Stress coping (Ito) 2) April 21 (Wed) What would you do if you think child maltreatment in the middle of CBT? (Takaoka) 3) April 28 (Wed) Cognitive Behavioral Therapy for Panic Disorder 1 (Seki) 4) May 12 (Wed) Cognitive Behavioral Therapy for Panic Disorder 2 (Seki) 5) May 19 (Wed) Cognitive Behavioral Therapy for Social Anxiety Disorder (SAD) 1 (Shimizu) 6) May 26 (Wed) Cognitive Behavioral Therapy for Social Anxiety Disorder (SAD) 2 (Shimizu) 7) June 2 (Wed) Psychological assessment of the Autism Spectrum Disorder (ASD) (Oshima/Taguchi) 8) June 9 (Wed) Role play of Cognitive Behavioral Therapy for depression (Shimizu)</p> <p>Those who wish to take this course need to contact neurophys1@ml.chiba-u.jp beforehand.</p>
<p>授業外学習 / Self Study</p>	<p>本科目はすべてオンデマンド授業であり、くりかえし受講して復習し、自分のものとする。</p> <p>参考書: 自分でできる認知行動療法 (うつと不安の克服法) 清水栄司 (星和書店)、その他、適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。</p>	<p>Repeatedly review each lecture on demand.</p> <p>Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>
<p>評価方法・基準 / Evaluation</p>	<p>各回の講義について、テストを行い、総合的に判断する。</p> <p>フィードバック: 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Judged by tests, etc.</p> <p>Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.</p>

メンタルヘルスエクセルシオール演習 III ※メンタルサポート医療人養成コース修了者が履修可能		Mental health excelsior practice III
科目責任者/Organizer: 清水 栄司 / Shimizu Eiji	単位/Credit: 1	実施時期/Conducted: T4, T5
連絡先/Email: ejji@faculty.chiba-u.jp	授業形態/Course type: 独自配信システムによりオンデマンド型メディア授業 /online (on-demand) on original e-learning system	
目的 / Objectives	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため、メンタルヘルスにおける実践を理解する。	・ In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.
目標 / Goals	受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・ うつ、不安などの問題を抱える患者に対して行われる認知行動療法の症例を検討することで、メンタルヘルス相談支援の実践を理解し、メンタルサポート医療人とメンタルプロフェSSIONナルとの多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル等）の連携を身につける。	GIO (General Instructional Objective): students will understand the practice of consultation support in mental health by studying the case of cognitive behavioral therapy performing to patients with problems such as depression and anxiety. In addition, students are expected to acquire cooperation between health professionals. SBO (Specific Behavioral Objective): students will learn how to proceed sessions according to case assessment.
授業計画・授業内容 / Course Plans and Contents	全8回の演習からなり、認知行動療法の症例を検討するとともに、メンタルサポート医療人とメンタルプロフェSSIONナルとの多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル等）の連携を身につける。すべてオンデマンド型メディア授業。 第1回 10/6 (水) 認知行動療法の症例検討 (清水先生) 第2回 10/13 (水) 認知行動療法の症例検討 (中川先生) 第3回 10/20 (水) 認知行動療法の症例検討 (浦尾先生) 第4回 10/27 (水) 認知行動療法の症例検討 (伊藤先生) 第5回 11/10 (水) 認知行動療法の症例検討 (久能先生) 第6回 11/17 (水) 認知行動療法の症例検討 (大島先生) 第7回 11/24 (水) 認知行動療法の症例検討 (高橋先生) 第8回 12/1 (水) 認知行動療法の症例検討 (沼田先生) 独自の配信システム（メンサポ・メンプロ/CBT ラーニング）で配信。 履修については、事前に認知行動生理学研究室へ連絡必須。 連絡先: 認知行動生理学研究室 neurophys1@ml.chiba-u.jp	1) Oct 6 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Shimizu) 2) Oct 13 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Nakagawa) 3) Oct 20 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Urao) 4) Oct 27 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Ito) 5) Nov 10 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Kuno) 6) Nov 17 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Oshima) 7) Nov 24 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Takahashi) 8) Dec 1 (Wed) Case study of cognitive behavioral therapy (Numata) Those who wish to take this course need to contact neurophys1@ml.chiba-u.jp beforehand.
授業外学習 / Self Study	本科目はすべてオンデマンド授業であり、くりかえし受講して復習し、自分のものとする。 参考書: 適宜, 参考書を紹介し, プリント等を配布する。	Repeatedly review each lecture on demand. Materials : Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 / Evaluation	各回の症例検討会について、要約などをレポートにて提出し、総合的に判断する。 フィードバック: 各講義に関するフィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。	Judged by reports, etc. Feedback : Those who wish to have a feedback on each lecture should contact the instructor.

イノベティブ先端治療学(応用)		Innovative Advanced Therapeutics (Applied)
科目責任者/Organizer: 本橋 新一郎 MOTOHASHI Shinichiro		単位/Credit: 2 実施時期/Conducted: T1-T2
連絡先/Email: motohashi@faculty.chiba-u.jp		授業形態/Course type: 対面 / In-person
目的 Objectives	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため、優れた基礎研究成果を基にした先端的治疗開発の取り組みを学ぶことにより、基礎研究の重要性を学ぶとともに、トランスレーショナルリサーチを計画・実行する基礎的能力を身につける。	The subject aims to develop students' problem-solving abilities required for an independent researcher. By learning efforts and processes to develop cutting-edge therapies generated from the findings of excellent basic research, students will understand the importance of basic research, and acquire basic knowledge and skills to plan and conduct translational research.
内容 Contents	"受講者は次の事項を説明できることを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気管支喘息発症メカニズムと TR ・ 進化するがん薬物療法 ・ 遺伝子治療によるタンパク質補充療法 ・ 小児希少がんに対する TR ・ 神経疾患における TR ・ 機械学習による疾患層別化予測 ・ 肺癌に対する免疫治療 ・ 内分泌・代謝・老年病研究の新展開 ・ 造血管腫瘍の新しい治療法 ・ 関節リウマチと抗体治療 ・ 医薬品開発における特許の役割 	Students are expected to explain the following knowledge and skills. <ul style="list-style-type: none"> ・ Translational research for bronchial asthma ・ Evolving cancer chemotherapy ・ Gene therapy for intractable serum enzyme deficiencies ・ Translational research for rare pediatric malignancies ・ Translational research for neuropathy ・ Prediction of disease stratification by machine learning ・ Immunotherapy for lung cancer ・ Novel development of research in endocrinology, metabology, and gerontology ・ Novel Therapeutics for Hematological Malignancies ・ Antibody therapy for Rheumatoid arthritis ・ The role of patent in drug development
授業計画・授業内容 Course Plans and Contents	全 12 回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。 <第 1 回> 5 月 21 日(金)Ⅳ限 トランスレーショナル先端治療学総論 (花岡英紀) <第 2 回> 5 月 25 日(火)Ⅳ限とⅤ限 気管支喘息発症メカニズムと TR (中島裕史、須藤明) <第 3 回> 5 月 31 日(月)Ⅳ限とⅤ限 進化するがん薬物療法 (滝口裕一) <第 4 回> 6 月 1 日(火)Ⅳ限とⅤ限 遺伝子治療によるタンパク質補充療法 (黒田正幸) <第 5 回> 6 月 10 日(木)Ⅲ限とⅣ限 小児希少がんに対する TR (菱木知郎) <第 6 回> 6 月 18 日(金)Ⅲ限とⅣ限 神経疾患における TR (桑原聡、柘田大生) <第 7 回> 6 月 21 日(月)Ⅲ限とⅣ限 機械学習による疾患層別化予測 (川上英良) <第 8 回> 6 月 25 日(金)Ⅲ限とⅣ限 肺癌に対する免疫治療 (本橋新一郎) <第 9 回> 6 月 28 日(月)Ⅲ限とⅣ限 内分泌・代謝・老年病研究の新展開 (横手幸太郎、前澤善朗) <第 10 回> 6 月 30 日(水)Ⅲ限とⅣ限 造血管腫瘍の新しい治療法 (堺田恵美子、塚本祥吉) <第 11 回> 7 月 5 日(月)Ⅲ限とⅣ限 関節リウマチと抗体治療 (池田啓) <第 12 回> 7 月 9 日(金)Ⅲ限とⅣ限 医薬品開発における特許の役割 (大澤健一、松本泰彦)	Omnibus Lecture Series features twelve speakers. <No.1> May 21(Fri) 4th Per:Introduction of translational advanced therapeutics (Hanaoka Hideki) <No.2> May 25(Tue)4th&5th Per: Translational research for bronchial asthma (Nakajima Hiroshi and Suto Akira) <No.3> May 31(Mon)4th&5th Per: Evolving cancer chemotherapy (Takiguchi Yuichi) <No.4> Jun 1(Tue)4th&5th Per: Gene therapy for intractable serum enzyme deficiencies (Kuroda Masayuki) <No.5> Jun 10(Thu)3rd&4th Per: Translational research for rare pediatric malignancies (Hishiki Tomoro) <No.6> Jun 18(Fri)3rd&4th Per: Translational research for peripheral neuropathy (Kuwabara Satoshi and Masuda Hiroki) <No.7> Jun 21(Mon)3rd&4th Per: Prediction of disease stratification by machine learning (Kawakami Eiryo) <No.8> Jun 25(Fri)3rd&4th Per: Immunotherapy for lung cancer (Motohashi Shinichiro) <No.9> Jun 28 (Mon)3rd&4th Per: Novel development of research in endocrinology, metabology, and gerontology (Yokote Koutaro and Maezawa Yoshiro) <No.10> Jun 30 (Wed)3rd&4th Per: Novel Therapeutics for Hematological Malignancies (Sakaida Emiko and Tsukamoto Shokichi) <No.11> Jul 5(Mon)3rd&4th Per: Antibody therapy for Rheumatoid arthritis (Ikeda Kei) <No.12> Jul 9(Fri)3rd&4th Per:The role of patent in drug development (Osawa Kenichi and Matsumoto Yasuhiko)

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> 授業外学習 Self Study </p>	<p>本講義で取り扱っている内容は、トランスレーショナルリサーチ実施に際して有用な知見であり、受講者が将来基礎研究から臨床応用を目指す際には必ず役立つ内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとするこ と。</p> <p>参考書：適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する</p>	<p>In this subject, we cover useful insights and knowledge necessary for implementation of translational research, which you will find them helpful in translating basic science research to clinical application in the future. Therefore, you are expected to review the given handouts after each class, until you fully understand what you learned.</p> <p>Materials : Reference books will be suggested during class on an as-needed basis. Handouts will be provided.</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> 評価方法・基準 Evaluation </p>	<p>各講義ごとの講義態度(50%)及びレポート(50%)で評価する。</p> <p>フィードバック：オムニバス形式で開講するため、個別のフィードバックは実施しない。</p> <p>フィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。</p>	<p>Evaluation: learning attitude (50%), and assignment (50%).</p> <p>Feedback : As this subject offers omnibus lectures, no individual feedback will be provided.</p> <p>Contact the organizing faculty for inquiries on feedback.</p>

科目名: プレゼンテーションセミナー中級		Presentation Seminar / Intermediate
科目責任者/Organizer: 本橋 新一郎 (Motohashi Shinichiro)		単位/Credit: 1
連絡先/Email: sah5234@office.chiba-u.jp		実施時期/Conducted: T1
授業形態/Course type: 対面授業 / In-person		
目的	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究倫理に則り自ら研究課題を設定し、自立した研究活動を行う能力を修得するため、プレゼンテーション力を身につける。	In the fields of medicine, pharmacy and related majors, acquire the presentation skills to take the ability to perform independent research activities and set independent research activities in accordance with research ethics.
目標	このコースでは、効果的で記憶に残る英語プレゼンテーションの方法を学習し、実践出来ることを目標とする。プレゼンテーションの構成に関して学ぶだけではなく、プレゼンテーション本来の目的を達成するために不可欠なテクニックと言語スキルの習得を目的とする。またプレゼンターとしてだけでなく聴衆メンバー側としても参加する体験を通し、プレゼンテーション内容に関する質疑応答を円滑に行う技術もあわせて学習する。	In this course, you will learn how to deliver an effective and memorable English presentation. Not only will you learn about the structure of a presentation, but you will also obtain the essential techniques and language skills needed to achieve your presentation goals. In addition, you will participate in the course both as a presenter and as an audience member, giving you the opportunity to practice asking and responding to questions smoothly.
授業計画・授業内容	<第1回> 5/10 (月) Ⅲ限: 効果的にコミュニケーションする方法 -効果的な言葉の使い方、発声の仕方、体の使い方 <第2回> 5/10 (月) Ⅳ限: プレゼンテーションを開始する -自己紹介、プレゼンテーションの説明、アウトラインの紹介 <第3回> 5/17 (月) Ⅲ限: プレゼンテーションの本論を展開する -プレゼンテーションの開始、意見の繋ぎ方、次項目への移行 <第4回> 5/17 (月) Ⅳ限: プレゼンテーションの結び -プレゼンテーションの要約、開始との対照、聴衆への謝意 <第5回> 5/24 (月) Ⅲ限: 質疑応答に対応する -聴衆への質問誘導、質問への回答、問題への対処 -質問への回答、質問への答えの確認 <第6回> 5/24 (月) Ⅳ限: 質疑応答に対応する -聴衆への質問誘導、質問への回答、問題への対処 -質問への回答、質問への答えの確認 <第7回> 5/31 (月) Ⅲ限: 最終プレゼンテーション -自分が選んだトピックを基にプレゼンテーションを実施。クラスメイトは聴衆者として参加し、Q&A タイムでは質問をする。その後プレゼンターへ前向きで建設的なフィードバックをする。この最終講義において自身の成果を再認識・評価出来る。 <第8回> 5/31 (月) Ⅳ限: 最終プレゼンテーション -自分が選んだトピックを基にプレゼンテーションを実施。クラスメイトは聴衆者として参加し、Q&A タイムでは質問をする。その後プレゼンターへ前向きで建設的なフィードバックをする。この最終講義において自身の成果を再認識・評価出来る。	<No.1> May 10 (Mon) Ⅲperiod : Communicating Effectively -Using language, your voice and your body effectively <No.2> May 10 (Mon) Ⅳperiod : Opening A Presentation -Starting the purpose of your presentation and your outline <No.3> May 17 (Mon) Ⅲperiod : Delivering the Body of a Presentation -Connecting your ideas, moving on to the next point <No.4> May 17 (Mon) Ⅳperiod : Closing A Presentation -Summarizing your presentation, mirroring the opening <No.5> May 24 (Mon) Ⅲperiod : Conducting a Q/A Session -Inviting questions from the audience, answering the questions -Responding to the questions, confirming that you have answered <No.6> May 24 (Mon) Ⅳperiod : Conducting a Q/A Session -Inviting questions from the audience, answering the questions -Responding to the questions, confirming that you have answered <No.7> May 31 (Mon) Ⅲperiod : Final Presentation -You will deliver a presentation on a topic of your choice. Your classmates will participate as the audience, ask you questions in Q&A. You will be able to recognize and evaluate your achievements in this course through your work in these final lessons. <No.8> May 31 (Mon) Ⅳperiod : Final Presentation -You will deliver a presentation on a topic of your choice. Your classmates will participate as the audience, ask you questions in Q&A. You will be able to recognize and evaluate your achievements in this course through your work in these final lessons.
授業外学習	講義前にしっかりと教科書に目を通し、内容を理解しておくことが重要。講座終了後は何度も復習し、また自身の研究やプレゼンにどう反映させるか、適応できるか、シミュレーションすることを勧める。	Reading the textbook carefully before the lesson. Contemplate the contents of the session and how they relate to you and your research activities after the lesson.
評価方法・基準	・最終プレゼンテーション (50%) ・講義への参加姿勢 (50%)	・ Final presentation (50%) ・ Attitude to participate in lectures (50%)